

数名参加され、絡子受衣の儀式をいたしました。お出でいただくにあたり、先年遷化されましたがお袈裟に詳しい長井龍道老師よりご指導いただき、下越寺院有志十数名、五条、七条、九条の三衣をそれぞれが把針しております。

糞掃衣の衣財は母の無地の着物、遠山は柄の着物の切れ端を用い、福田会の方々やご縁のあった老師方にそれぞれ一枚ずつお願いし、心を込めた却刺縫いの功德をいただき、十一条衣でしたので両長一短、三十三枚を接ぎ合わせ遠山十一条糞掃衣を完成させました。



五条衣 (絡子)

お袈裟は「水田」を模して作られたとされています。お釈迦さまは人々が田を耕して良き実りを得ている様子を「覧になり、私たち僧侶のなすべきことは、『人々の心の田を耕すこと』『人々を安心の世界に導くこと』であるとし

て、身に付けさせるようになりました。

「袈裟をかけるということは仏の心を身にまとうこと」、お袈裟は「仏の心」を表しており、身につけることは「仏の心に覆い尽くされること」と道元さまは述べられています。

お袈裟は単なる法要衣裳ではなく、「仏のお身体なんだ、仏の心をいただくことになるのだ」という自覚を持ち、お釈迦さま、道元禪師さまの法を嗣ぐものとして、日々丁寧に大切に護持していかなければなりません。

お袈裟を縫い始めてからもう四十年になりました。今年には住職も准高齢者の仲間入りです。老眼鏡をかけながらも、なかなか針の穴に糸を通すのも難儀になってきました。『仏道を成ぜんがために』、お袈裟把針の修行が続きます。

*因みにお寺からお授けしていただきます輪袈裟(檀信徒の方が法要等の際に身に付けていただくもの)も同じものです。大切に扱わなければなりません。

■柴橋庵・渡邊浄仙尼遷化

柴橋庵十二世祖園浄仙尼和尚は二月十日遷化(死去)されました。世寿七十六歳。十七日通夜、十八日本葬儀を本寺である広蔵寺本堂にて執り行いました。柴橋地区他ご縁のある方々多数参列、浄仙様の生前をお偲びしお別れいたしました。



祖園浄仙尼

浄仙様は終戦の頃、二、三歳の時に柴橋庵に住します。当時は佐藤百合子さんでした。その頃庵寺には阿部貞樹様、渡邊貞乗様 平成二十六年死去がおられ、柴橋小学校、中条中学校、そして就職、昭和四十三年に広蔵寺十八世神田洞光和尚の得度を受けて出家、僧名浄仙と名付けられました。修行は小出尼学林、その後尼僧としての道を歩み、先代貞乗様と共に柴橋地区住民の大切なお寺として活動、活躍されました。尚、本葬儀は胎内地区他十一名の寺院様にて執行しました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

お寺からのお願い

▼お墓にお供えのお菓子、果物、口を開けたワンカップ、日本酒の瓶、ジュースの缶、ペットボトル等はすずめ蜂がよってきて危険ですのでお供えしてお参りの後、それぞれお持ち帰りください。

▼参道脇のゴミ捨て場には、自然ゴミ(花、草、落葉、枯れた樹木類)以外は捨てないでください。花を包んである紙、花を縛ってあるビニール紐、アルミホイル、ラップ、発泡スチロール、トレイ、プラスチック、ナイロン等や、墓掃除の雑巾、タワシ、洗剤容器、軍手、ビニール手袋等は持ち帰って燃えるゴミとして町のゴミ収集車に出して下さい。自然ゴミと町に出すゴミの分別をお願いします。▼缶、瓶、欠けた茶碗、コップ等の不燃物は持ち帰って危険物として町指定日に出して下さい。

▼各地域の墓地(境内墓地以外の方)で塔婆等の処理に悩んでいる方はお寺にお持ち下さい。業者を頼んで処分します。

*墓地には焼却炉はありません。
*墓地のゴミ分別、環境美化にご協力をお願いいたします。